

第 20 回日本消化管 CT 技術学会 (GICT) 総会・学術集会に参加して
小樽掖済会病院 平野雄士

皆さん、お久しぶりです。今回は 2022 年 6 月 18 日に熊本で行われた第 20 回の日本消化管 CT 技術学会 (GICT) 総会・学術集会のお話をさせていただきます。今年の第 19 回は完全 WEB での開催でしたが、今回は済生会熊本病院の坂本崇大会長の指揮によりハイブリッドで行いました。現地開催も久しぶりなので、戸惑いながらの開催でした。また、ハイブリッド開催は課金の問題や、LIVE とオンデマンドの視聴についても難しいところがありました（一部ご迷惑をおかけした方、申し訳ありませんでした！）が、済生会熊本病院の職員の方の手助けもあり、何とか(?) やり抜けたようです。

さて内容はというと、一般演題では①腸管外所見について②内視鏡挿入困難例について③前処置の検討④dual energy の利用⑤ポリープ自動検出について⑥DLR を用いた低線量化についてと多様な発表があり、どれも大腸 CT の技術に関する特筆すべき研究です。

講演会では総論的な話ばかりになりがちなので、各論をじっくり聞けるのはこの学会のいいところです。

次のランチョンセミナーでは済生会熊本病院の満崎克彦先生から『大腸 CT 検査の現状と最新の話』の講演がありました。最新の潮流とともにタスクシフトが求められる診療放射線技師への期待や大腸 CT 専門技師に対する期待を込めてお話しされていたのが印象的でした。

総会では事業報告、事業計画、会計報告、予算案が承認され、新たに理事として山本修司（株式会社リジット）、評議員として原田耕平（札幌医大）大家祐介（小樽掖済会）村田浩毅（上野会クリニック）木下琢実（倉敷成人病センター）が加わり力強い陣容となりました。

次に『CTC 被ばく線量の考え方』として、安田貴明先生（長崎県上五島病院）、平山憲先生（国立がん研究センター東病院）から実践に即した撮影線量のお話があり、プロトコールセッションでは大腸 CT 専門技師認定機構の理事長でもある鈴木雅裕先生が、今回の大会のテーマである『大腸 CT の標準化』についてお話しされました。

最後の講演では九州大学の鶴丸大輔先生より、消化管各部位の画像と疾患の特徴を踏まえた所見を分かりやすく解説していただき、とても勉強になりました。久しぶりに消化管のCT一色に染まった学会を堪能できCTCの今の立ち位置を整理することができました。

さて、せっかくの熊本なので、見逃せないのが熊本城とくまモンです。平成28年の熊本地震の被害により、熊本城の全体はまだまだ修復中ですが、天守閣は観光用にしっかり作り直されていました。観光化された天守閣は以前のような重厚さは感じられなくなってちょっと残念でしたが、必死の思いで修復に向けて頑張っているのがよくわかる展示となっていました。今後、城下全体が修復され、味わい深い熊本城と出会える日を楽しみにしたいと思います。

次回は令和5年7月15日(土)東京にて開催予定です。ご興味のある方はぜひご参加ください。



Fig.1 いち早く修復された天守閣。内部は近代的。



Fig.2 崩れて修復を待つ石垣



Fig.3 JR熊本駅では『巨大なくまモン』が我々を温かく迎えてくれました。